チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西
発足 30 年の集い

～ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブリ
そしてフクシマを結んで～

2021 年 12 月 12 日（日）　午後 2 時～4 時 30 分

大阪市立総合生涯学習センター　第一研修室（大阪駅前第 2 ビル 5 階）

≪プログラム≫

＊基調報告: 30 年を振り返り、これからに繋ぐ
　30 年を振り返る（スライドショー）/当面の取り組み（国連人権理事会への共同文書提出など）/今後１０年を見据えて
＊歌：アカリトバリさん
＊特別ビデオ・メッセージ：トリチウム汚染水海洋放出に反対する福島の漁師さん
＊連帯のメッセージ：チェルノブイリとフクシマの友人の方々、等
＊討論・アピール

（資料代：800 円,学生・避難者・障がい者：400 円）

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西は、チェルノブイリ原発重大事故から 5 年目の 1991 年に活動を始め、今年で発足 30 年を迎えます。多くの方々に支えられ、ここまで歩みを重ねてくることができました。

ヒロシマ・ナガサキの被爆者の方々に学び、被ばく被害の苦しみをこれ以上繰り返えさせてはならないという思いから、チェルノブイリ原発事故のヒバクシャ、特に被ばくの健康影響を受けやすい、未来を担う子どもたちを支援しようと、思いを同じくする方々と共に取り組みを始めました。そして、ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリを結んで、お互いに「顔の見える関係」「支えあう関係」を大切に支援・交流を続ける中で「繰り返さないでチェルノブイリ」「核兵器も原発も許さない」が、私たちとチェルノブイリのヒバクシャとの共通の合言葉となりました。

「繰り返さないで」と訴えてきたにもかかわらず、2011 年に東日本大震災に伴って東電福島第一原発で重大事故が起こり、甚大な被害がもたらされてしまいました。私たちは事故直後から、チェルノブイリ支援の経験を生かし、フクシマ事故被害者の被ばく防護や保養支援への協力などに取り組みました。そして、翌 2012 年に、チェルノブリ被災地の友人たちと共に福島を訪れたことが、原発重大事故によるヒバクシャとしての体験を交流し、励まし学び合う、チェルノブイリとフクシマの被害者どうしの交流の第一歩となりました。10 年経ってもフクシマ事故は収束せず、被災地での問題は山積みで、「復興」にはほど遠い現状があります。今年 4 月には、政府と東電は「トリチウム汚染水」海洋放出の方針決定を強行しました。被害者に、故意にさらなる放射能汚染を押し付ける汚染水の海洋放出を許してはなりません。

ベラルーシの「移住者の会」代表　ジャンナさん、福島（いわき）訪問。（2016 年）

私たちはヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ、そしてフクシマを結んで、原発事故被害者の人権と補償の確立、健康と生活を守るために、そしてもうこれ以上原発重大事故を繰り返さないために活動を続けます。30 年間を振り返り、これからを見据えながら皆さんと共に歩んでいきたいと思います。「集い」への多くの方々の参加をお待ちしています。

（会場とオンライン（Zoom）同時開催といたしますが、できれば会場参加をお願いいたします。もし、コロナ感染が急拡大した場合にはオンライン開催のみとなる場合もあります。不明の場合はお問い合わせ下さい。体調に不安がある方は来場をご遠慮ください。Zoom 参加をご希望の方は 12 月〇〇日までに下記メイルアドレスまでご連絡ください。）

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

<問合せ>　電話：072-253-4644(いのまた) , 0797-74-6091(たなか), e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp